

(6) 余市高等学校の運営総括

I. はじめに

2023, 2024 年度 余市高校年間聖句

「小さき群れよ、恐るな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」

(ルカによる福音書 12 章 32 節)

(1) 開校 60 周年記念を迎えた年、これまでの歴史とこれからの使命を確認した年となりました。この間、支えてくださった北星学園関係者、卒業生・卒業生保護者に感謝の気持ちでいます。記念講演は植松電機社長の植松勉氏。記念誌の発刊も行いました。

(2) 教職員が予定より不足する形で乗り切ることで支出削減もはかることができましたが、分掌や突然の自習対応への割り当てに偏りが出たり、事務職員への負担が恒常化しています。宗教主任を退職された塩見先生が担ってください、助かりました。

(3) 学校所有の寮が2軒とも運営できました。休日の食事の条件や立地環境もあり、予定以上の充足率で運営できました。

(4) 今年度は、年度途中転入が16名（1年生13名、2年生3名）ありました。全日制としての環境を求めている通信制高校からの転入が一定数あります。

(5) 薬物事件が起きました。事柄自体は昨年度のことですが、若者を取り巻く環境のすぐそばで存在していることなど、社会問題として考える必要を実感しています。



・2024 年度進捗・達成状況一覧

事業分野	◎ 達成	○ 達成への進行度 (高)	△ 達成への進行度 (低)	× 中止	計
重点施策	2	4	0	0	6
教学	13	3	0	1	17
経営・管理	3	2	0	0	5
財務	3	2	1	0	6
合計	21	11	1	1	34

※達成度：◎達成、○達成への進行度（高）、△達成への進行度（低）、×中止

Ⅱ. 重点施策

(1)	〔教科教育の充実〕 教科間連携やＩＣＴなどを含めた教材の充実を図ります。	達成度	◎
-----	---	-----	---

徐々にではありますが、教科間連携やICTなどを活用した教材作りが進んでいます。特に、情報と英語科によるインドの学生との交流は生徒にとっても好評です。年度末の教科総括や方針で充実した仕組みや内容に作り上げられるよう点検を行なっています。また、一斉授業のような教員からの一方的な説明だけではなく、生徒間の教え合いが定着してきており、学びやすい雰囲気を作ることができました。

(2)	〔HR活動の充実〕 HR活動や生徒会活動を通した集団づくり教育の共有と、引継ぎができる体制づくりを進めていきます。	達成度	◎
-----	--	-----	---

教員会議や朝の打ち合わせが学年部会の情報共有の機会になっています。他学年の重大な動きは隔週の教員会議を待たず全体で共有できる仕組みが確立しています。HR 活動や生徒会活動を通した集団づくり教育の継承については、教師研修会のテーマとして取上げました。

(3)	〔生徒募集体制と方法の点検〕 入試広報の体制と業務を点検し、必要に応じて見直しを図ります。	達成度	○
-----	--	-----	---

入試広報の体制と業務の引継ぎや共有のための点検は十分には行えていません。2025年度に見直しを図ります。

(4)	〔寮下宿の今後の見直し確認〕 寮下宿の管理人の高齢化に伴う、今後の体制を検討していきます。	達成度	○
-----	--	-----	---

寮下宿の管理人の高齢化を踏まえ、管理人に聞き取りを行いました。当面 3 年ほどは見通しが持てそうですが、今後の体制を急いで検討する必要があります。

(5)	〔働き方の見直し〕 教員の勤務体系を点検し、変形労働制への移行の可能性を探ります。	達成度	○
-----	--	-----	---

教員の勤務体系を点検し改善され始めています。しかし、変形労働制への移行や残業内容の点検等、急がなければなりません。また各教員それぞれの働き方に関する意識変革も必要です。

(6)	〔財政の改善〕 財政の健全化に向けた点検と施策を進め、改善を図ります。	達成度	○
-----	--	-----	---

補助金申請や外注業務の見直しなどを図り、改善できた部分がいくつかありました。また開校 60 周年の年ということもあり、寄付が好調でした。しかし、根本的な人件費削減と生徒増による収入改善が必要になります。

Ⅲ. 教学

I. 教科教育

1. グラデュエーション・ポリシーの達成状況を点検・評価し、スクール・ポリシーを改善・見直しを行う体制を構築する。

(1)	項目に対する教員自己評価を年度末に実施します。評価の低い項目については、改善案を検討できる仕組みを構築します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

自己評価を実施しました。この後、評価の共有をはかり、改善策が必要なものの検討が残っています。その際、生徒アンケートも参考にします。

2. スクール・ポリシーに基づいた教育を実践するために、外部研修への参加や講師を招いた学習会を開催し、教員のスキルを向上させる。

(2)	教師研修会に講師を招き、学習会を開催します。	達成度	○
(3)	項目に対する教員自己評価を年度末に実施します。評価の低い項目については、改善案を検討できる仕組みを構築します。		

オンライン研修も含めた外部研修について体制は整えていますが、なかなか余裕がないこともあり予定通りの参加までできていません。生徒指導や教材研究など、情報のアップデートや発見の意味でも追求していきたいと考えます。講師を招いた学習会は、生徒と直接関わる場面での適切な対応のために開催し、理解につながりました。

3. 知識を得ることや学ぶことに能動的に取り組む、自らの世界を広げることができるような授業や行事を計画する。

(4)	教科方針会議で年度の到達目標を教員内で共有します。	達成度	◎
-----	---------------------------	-----	---

知識の伝達だけではなく、高校卒業後に向けた学びの計画が共有されてきています。また、現在使用している教材をテーブルに乗せ、今後の教科を跨いだ連携についても見直しを始めています。

4. 他者の考え方や価値観に触れることで人間性の成長を図ることができるように、対話による学習の機会を多く設けた授業を展開する。

(5)	対話学習が展開できる教科については、2024 年度から随時展開していきます。	達成度	◎
(6)	研修会等を利用し、実践が共有できる仕組みを作ります。		

いくつかの教科で授業にグループ学習の仕組みを導入しています。班での意見の出し合いとまとめを行い、班ごとに発表する流れが定着しています。授業時間以外も意欲的に取り組む姿勢が見られました。実践例の報告は冬の研修会で行うことができ、生徒の意外な才能や表情が共有できました。

5. 他者と協力する力や課題解決に必要な考え方を体得するために、探究を用いた授業の展開を推進する。

(7)	展開の有無に関わらず、各教科の総括で探究への取り組み（予定含め）の可能性を検討し、共有します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

教科総括会議での取り組みを共有し、より効果的な展開ができるように検討しました。

6. 発表力を身に付けられるように、探求的な学習のほか、弁論や音楽、動画などの媒体を活用した自己表現を行えるような機会を充実させる。

(8)	全校生に活動の報告する機会を設けるなど、他の生徒が関心を持てるような仕組みを整えます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

いくつかの機会を設け、自分の表現を楽しむ様子があります。各教科の特性なども活かし、小さな機会も増やししながら、表現する力を養っています。



▲昼休みのロビーで行われた「ランチコンサート」(2024.11.21)

7. 3年間の学校生活を通して、科学的・論理的な思考を深める事ができる授業や諸活動を充実させる。

(9)	教科横断で扱える教材（単元）を設けます。	達成度	○
-----	----------------------	-----	---

2 年生の修学旅行前の沖縄平和学習が主な取組みとなっています。国語、社会、音楽、英語がそれぞれの教科に絡めた教材を用いた事前学習を行なっています。その他、教師研修会で、国語、社会、保健による「薬物(防止)学習」についてこれまでの取組みを振り返り、今後に反映させるように検討を行いました。2024 年度は検討で終わってしまい、教科横断の実践までではできていません。

8. 様々な情報の中から本当に必要なものを正しく科学的な視点を用いて選び取る力を身に付けさせる。

(10)	余市校としての情報活用のあり方について、総務を中心に方針を立てます。	達成度	×
------	------------------------------------	-----	---

授業での情報活用は展開していますが、情報リテラシーや著作権等を踏まえた活用については検討することができませんでした。

9. 総合講座を活用し、社会や地域と繋がりながら学ぶ機会を充実させる。

(11)	内部教員の講座にシフトする方針だが、地域につながる講座も維持します。	達成度	◎
(12)	町民や近隣町村から、地域の伝統や課題に詳しい人を探し、将来を考え繋がりを作ります。		

地域の方に講師をお願いしている講座が7講座あります(ぶどうのお仕事(ワイン)、世界の文化をのぞいてみよう(異文化理解)、HIPHOP ダンス、希望の種を蒔こう(園芸)、カルデラ太鼓、創作(美術)、社会福祉)。特にカルデラ太鼓は地域のお祭りや学外のイベントに参加させてもらい、講座メンバーにとっては刺激的な機会となっています。2025 年度はこの他に2講座増やすことで、より地域と繋がるようにします。



▲総合講座「カルデラ太鼓」(開校 60 周年式典でのデモンストレーション)

10. 生徒会執行部を中心とした自主活動を年間計画に組み込み、クラスを中心として取組む体制を確立する。

(13)	行事における総括の項目を再点検し、翌年以降反映しやすい形に整えます。	達成度	○
(14)	その他の実践例も含め、研究紀要としてまとめる形を追求します。		

教員が行事の意味や目的を理解し、生徒会執行部やクラスの生徒にフィードバックしていることで、生徒の中でも学年による継承が生まれています。各行事の総括会議を通して、修正点も含めた確認を積み重ねました。

実践例掲載する研究紀要は、2024 年度は進めることができませんでした。



▲生徒総会の様子

Ⅱ. 生活指導

1. 複雑化・多様化している事案に対し、指導力強化を目的に複数教員による生活指導体制を確立する。

(1)	相談できる専門家との連携強化のため、定期的に来校してもらう仕組みを作ります。	達成度	◎
(2)	年間 2 件以上の指導力強化や生活指導に有効な学びの機会を設けます。		

北海道教育大学の平野直己教授が長年本校と繋がってくれています。心理に関する研究をされていることもあり、難しいケースについて相談できる機会を2～3ヶ月に1度設けました。2024 年度は「合理的配慮」の考え方について勉強会を開き学びました。処分にかかわることで、保護者から法的な点で説明を求められたケースは、学園の顧問弁護士中村浩士氏に相談しながら進めました。

2. 自治能力を伴う「集団づくり教育」を理念として浸透させ、それを生活指導においても実践できる体制を構築する。

(3)	行事の総括などを参考に、それぞれの項目についてブラッシュアップを図ります。	達成度	◎
(4)	生徒会の方針案に行事や活動の目的や意義を載せ、全校生で共有します。		

集団に入りづらいと感じている生徒や、幼い関わり方などでうまく関係を作れない生徒がどのクラスにもいます。そのような生徒に対する指導の意図や反省点については各行事の総括を通して教員全体で共有してきました。問題になりそうなケースについて教員での学びも行いました。

生徒会執行部は、年度はじめの合宿や行事前の会議で行事や活動の意義を共有しました。各クラスにおろす要項にも「目的」を掲載するように意識していました。

3. 多様性を受入れ関わり合うことで社会性を身につけられるよう、HR活動を中心とした「クラスづくり」を通して実践する。

(5)	学校・クラス・学年（や寮下宿）には様々な経験や価値観をもった人間がいることを知り、それぞれを尊重し、学校が誰にとっても安心できる環境にします。	達成度	◎
-----	---	-----	---

HRの時間や学級通信、学年通信等を活用し、いろんな生徒がお互いに理解し合えるきっかけを作ることができました。その他、行事を通して関係を作ることで、支え合いや尊重し合うつながりができています。

Ⅲ. 進路指導

1. 進学・就職問わず、選択肢を幅広く持つことができるよう様々な生き方を紹介する機会を充実させる。

(1)	外部の仕組みも活用し、進路の選択肢を増やす機会を積極的に設けます。	達成度	◎
(2)	進路に関する書籍を幅広く選定し、図書室に配架します。		

進学先や進学率を重視するのではなく、生徒の生き方指導としての進路指導を大切にしています。「進路カフェ」という形で、ライセンスアカデミーやモンテカルロといった外部業者のガイダンスも含めたいくつかの機会を設けました。知らない分野の情報や実際に働く人の様子も見ることができます。生徒にとって新しい世界を知る機会を複数持てたのは良かったと思います。

進路に関する資料は、3学年の廊下に並べ、広く知らせることができました。



▲大地リースによる重機体験（2024.9.2）



▲焚き火カフェ（2024.6.2、10.3）



▲石狩にある鈴木商会のリサイクル工場見学（2024.12.4）

2. 生徒自らが将来どのように生きていきたいか考え、それに見合った進路選択ができるよう支援体制を強化する。

(3)	進路選択において生徒の適性が生かされる支援や情報提供を行います。	達成度	◎
(4)	学外の仕組みなども活用し、幅広く情報を得られる体制を整えていきます。		

大学のオープンキャンパスや就職説明会などの情報を提供しました。また、ハローワークとの連携で就職先情報を紹介してもらえたことで、就職につながったケースもありました。

3. 進学者に向けた支援を教科内で行うための体制を確立する。

(5)	授業以外の学びを希望する生徒に教材を準備するなどの体制を整えます。	達成度 達成度	◎
(6)	私塾など、オンラインも含めた学習の機会を紹介できるよう情報を集めます。		

授業以外の学びについては、オンライン学習支援ソフト「すらら」が活用できる仕組みをとっています。基礎学力の充実から進学希望者の学力向上までの範囲がカバーされています。

また、教員への質問が気軽にできる雰囲気から、放課後など学びにくる生徒もいます。

私塾などは紹介できていません。

4. 高大連携事業の効果を検証し、取組みの強化を図りながら学園内進学者を増やす。

(7)	大学進学希望者のうち、北星学園に学部があるものについては積極的に案内をします。	達成度	◎
(8)	中学校向けの学校案内で、北星大進学の可能性を積極的に案内し入学者を増やします。		

5月18日の北星大オープンキャンパスの引率を行いました。実際の内部進学者は5名でしたが、実際のキャンパス見学は効果があるように感じます。今後も続けていく予定です。

中学校向けの学校案内で進学実績を紹介していますが、入学者増という結果には至りませんでした。余市校の卒業後の実績がまだ町内には浸透していない様子なので、進学実績の案内は今後も続けて紹介していきます。

なお、北星学園大学進学者と本校教員の懇談会を高大連携委員会の協力のもと年に1度開いています。

進学者の近況を知るいい機会ですので今後も続けていきたいと思ひます。加えて、オープンキャンパス以外の日の見学も受け入れてもらひ、この機会を通して進学を決意した生徒もいました。日常を見ることでイメージしやすかったようで、この様な方法も有効でした。

IV. 経営・管理

I. 募集体制と広報

1. 安定した入学者数を確保するために、1名の専任教員、1名の専任事務を「入試・広報」として配置し、年間計画に基づいて実働にあたることのできる体制を構築する。

(1)	業務の整理と必要なスタッフを整理、確認します。	達成度	◎
(2)	年間の大きな流れを確立し、ベースとして必要な体制を確認します。	達成度	

入試広報部の業務が多岐に渡り、かつ様々な事柄と連動していることから、複雑化しています。事務的な作業はできるだけ事務に担ってもらうように整理しました。また、1年間の流れ(相談会、訪問活動、入試要項、広報活動など)はおおよそ固まってきており、入試広報部で共有する仕組みができ始めています。

2. 学校見学を通して本校の魅力や雰囲気を知ってもらうために実施体制を見直し、柔軟に見学を受け入れられる体制を構築する。

(3)	相談会来場者や資料請求者に向け、Webなどを活用し学校見学につながる仕組みを構築し、学校見学者増をはかります。	達成度	◎
-----	---	-----	---

各相談会での来場者には、できる限り学校を直接見ってもらうように促しました。Webの活用については、連携している業者とも相談しながら効果的な方法を模索中です。

3. WebサイトやSNS、Web広告等を活用した広報のほか、全国での相談会を通した魅力の発信を行い、それらの効果検証を行いながら効率的な広報戦略を立案できる体制を確立する。

(4)	現在委託している業者と年間計画を立て、効率化の検討会議を適宜行います。	達成度	○
(5)	相談会や見学会のアンケートに、Web広告について確認する項目を設け、反映させます。		

現在オンライン広報を委託している業者と、大都市での相談会やオンライン相談会前の広報について検討会議を随時行っています。

相談会や見学会の際にweb広告についてのアンケート項目は作れていませんが、「どうやって本校を知ったか」は口頭で聞くようにしています。

II. 働き方改革

1. 生徒が町民にお世話になりながら「家庭的雰囲気の中で生活する」環境は教育的効果が高いことから、この体制を継続するための管理体制を確立する。

(1)	既存の寮に対し今後継続可能かの打診を行い、新規立ち上げも含めた5年後の見通しを立てます。	達成度	◎
-----	--	-----	---

各寮に継続の可能性を聞取り、当面の見通しはたちました。ただ、管理人の高齢化もあり、イレギュラーなことも含めた対応策が必要であると考えています。新規寮の可能性や代わりの管理人探しを始めていますが、より範囲を広げていく必要があると考えています。



▲寮生活の様子①



▲寮生活の様子②

Ⅲ. 採用計画

1. 将来に向けた人事計画において、教育理念を継承し続けられるよう年齢バランスに考慮した採用計画を立て、運用できるような体制を確立する。

(1)	2025 年度から 2030 年度の採用計画案を立てます。	達成度	○
(2)	分掌について、引継用のマニュアル作成を始めます。		

採用計画案を大まかな形でまとめ始めています。しかし、教員募集については年々厳しくなっている状況のため、柔軟なカリキュラム編成も含めた対応にならざるを得なくなっています。

分掌の引継ぎマニュアルは、年度末の総括と方針によって引継げるような様式とし、歴代の書類は Teams に保存するようにしました。

V. 財務

Ⅰ. 財務運営方針

1. 2030 年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

(1)	採用計画と併せて、人件費のバランスを見直します。	達成度	○
(2)	2024 以降の修理・補修計画を立てます。		

採用計画が予定通りに進まないことが多く、年齢バランスによる人件費削減は難しい状況が続いています。採用については、当面 3 年程度は嘱託採用とし、専任の退職に伴う任用替えとしていく形にしています。担任や重要分掌の担い手のためにも、引続きできるだけ計画的に進めていくことが大切と考えています。

施設設備の補修計画については、本部とも相談しながら進めています。

2. 学校の理念に合致する実践や活動を積極的に取り入れ、寄付金や補助金を拡充する。

(3)	補助金対象の活動の一覧を作り、全教員で共有できる形にまとめます。	達成度	◎
(4)	企業寄付やふるさと納税の可能性を追求します。		

補助金対象の項目は、本部企画広報課と相談しながら進めました。対象項目一覧は教員会議で共有し、できるだけ対象事業に着手できるようにしました。

2024 年度大口の寄付がありました。ふるさと納税については、手続きや返礼品などの作業が多く、当面扱えないと考えています。

3. 入学者を安定させるための募集体制と連動させ、適正な入学者数を獲得し、収入を安定させる。

(5)	外部との連携を校長・教頭・入試を中心につなげる仕組みを作ります。	達成度	◎
(6)	町内の中学校の行事には可能な限り訪問し対話を重ね、関係の構築をはかります。		

外部の施設や団体との連携として、例年程度の繋がりには維持できました。余裕がなく前年以上に広げたり深めたりという動きは取れていませんが、60周年記念誌を送るなど、つながり続けることは意識しました。町内の中学校とのつながりは、総務を中心に動きました。

4. 将来に向けた人事計画の取組みと連動させ、バランスの良い年齢構成から適正な財政構造に転換し、収支バランスを整える。

(7)	現行の退職年齢の場合、2028年度末までに専任4名が退職となります。以降の年齢バランスを視野に採用計画を立てます。	達成度	△
-----	---	-----	---

V-I-1と同じ。

II. 施設・設備

1. 寮下宿のあり方を含めた施設・設備計画を立案し、教育計画や生徒の安全等にも配慮した運営体制を構築する。

(1)	今後の寮の維持に関する見通しを整えます。	達成度	○
(2)	他校の実践も参考に、新規寮の可能性を探ります。		

当面の見通しは立っていますが、他校の実践例の調査まで着手できませんでした。

2. 施設・校舎の老朽化から起こる補修や機能移転に必要な新しい設備等については、当面精査しながら必要な整備のみを行う方針の下、支出を抑制する。

(3)	修理が必要な箇所や補修しなければならないものを洗い出し、優先順位をつけます。	達成度	◎
-----	--	-----	---

生徒の活動に影響のないように優先順位を決めて補修や改修を進めました。補修の必要な箇所の一覧は作成しました。

以 上